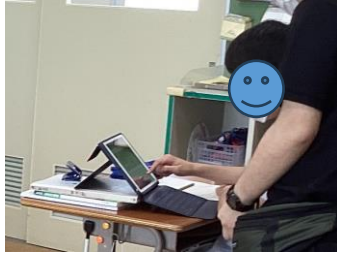


## 山形県立山形養護学校 中学部

## デジタル教科書の活用



日 時：授業①令和7年10月8日（水）10：30～11：20

授業②令和7年9月18日（木）8：40～9：30

場 所：中2-1教室

対 象：授業① 2年1組 1名

授業② 2年1組 1名

授業者：①金子和子 教諭

②国井千珠子 教諭

## 1 主に活用した機器・コンテンツ

授業①タブレット、教科書付属デジタルコンテンツ

授業②タブレット、デジタル教科書

## 2 授業

(1) 本時の目標

授業①正の数・負の数の加法において、異符号どうしの計算をすることができる。

授業②海外でのホームステイをするために、しなければならないことやしてはいけないことについて理解したり伝えたりすることができる。

(2) 指導過程

授業①

時間※1	●主な学習活動	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力※2
導入 8分	●挨拶をする。 ●点描写をする。 ●学習内容を知る。			
展開 37分 A1	●プリントを見て、今日の授業の内容を確認する。 ① (+) + (-) の計算はどのように計算するかを一緒に考える。 ② どのような場合に答えが正になるか、負になるかを予想し、実際に操作する。 ●プリントを解く。 (演習)	<b>○ICT 活用ポイント1</b> ・生徒のタブレットでデジタルコンテンツを開き、数直線を使ったシミュレーションをする。 ・いろいろな数値を入れることで、どの場合に正になるか負になるかを確認する。	・タブレット ・教科書付属デジタルコンテンツ	A1①cステップ3 目的に応じたアプリケーションの選択と操作 A1①fステップ2 情報の大体を捉える方法 B1ステップ1 問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付くことができる。
まとめ 5分	●次回の学習について知る。 ●あいさつ			

## 授業②

時間※1	●主な学習活動	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力※2
導入 8分	●挨拶をする。 ●フリートーク ●学習内容を知る。			
展開 37分 A1 B1	●教科書の読み取りをする。 ①新出単語の確認 ②本文の音声を聞く。 ③分かったことを伝える。 ④教師と一緒に一文ごと意味を確認する。 ●音読練習 ①教師とパートを変え行う。 ②デジタル教科書のペア機能を使う。	<b>○ICT 活用ポイント1</b> ・生徒のタブレットでデジタル教科書を開き、新出単語の確認、練習をする。 ・教師のタブレットでデジタル教科書を開き、本文の音声を流す。 ・音読練習では、ペア機能を使い、デジタル教科書で練習する。発音が難しい場合はリピート機能を使い、何度も音読する。	・タブレット ・デジタル教科書	A1①cステップ3 目的に応じたアプリケーションの選択と操作 A1①fステップ2 情報の大体を捉える方法 B1ステップ1 問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付くことができる。
まとめ 5分	●学習の振り返りをする。 ●次回の学習について知る。 ●あいさつ			

※1 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「学びのイノベーション事業報告書 学習場面に応じた ICT 活用事例」（参考資料1）に基づく表記を示す。

※2 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「【情報活用能力の体系表例（IE-School における指導計画を基にステップ別に整理したもの）】（令和元年度版）全体版」（参考資料2）に基づく表記を示す。

## 3 ICT 活用ポイント

**ICT 活用ポイント1** A1 教師による教材の提示 B1 個に応じた学習

## 授業①

数直線を使ったシミュレーションを使うことで、数の組み合わせによって答えの位置が正になったり負になったりする理由を視覚的に理解する。

## 授業②

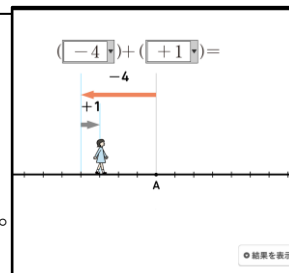
デジタル教科書でネイティブの音声を聞く、自分のレベルに合わせて再生速度を変えたり、苦手な箇所だけリピート再生したりすることで、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の力を伸ばしていく。

## 授業①

- (1) 自分が考えたことが正しいかを確認する。
- (2) 演習で計算した答えが正しいかを確認する。

## 授業②

- (1) デジタル教科書で新出単語の発音、意味を確認する。
- (2) 本文を聞き、大まかな内容を確認する。
- (3) 音読練習をする。



## 4 活用の成果

## 授業①

- ・数学に対して苦手意識があったが、デジタルコンテンツを使うことで興味関心を引き出すことができた。
- ・演習で計算した答えがあっているかをすぐに確認でき、達成感を得ることができた。

## 授業②

- ・よりネイティブらしい発音をしようと、苦手な箇所を繰り返し聞くことで、自信をもって発音できるようになった。